

熊本県乳牛改良同志会に義援金贈呈

◎牛飼いの仲間からの志

全国ホルスタイン改良協議会（岡嶋建一郎会長）は、熊本地震が発生したことを受け、被災された酪農家を支援すべく、去る4月に各都道府県の協議会会員団体をはじめとする「牛飼いの仲間」に募金要請を行なった。その結果、会員団体・関係機関をはじめとする全国63団体の同志から2,507,992円の義援金が届けられた。全国ホルスタイン改良協議会は、7月13日に熊本県乳牛改良同志会（松野克紀会長）に全国の「牛飼いの仲間」からの志として見舞金を一括贈呈した。

◎岡嶋会長が代表して贈呈

岡嶋建一郎会長は義援金の贈呈に際し、「被災された酪農家の皆様におかれましては、日常生活のみならず築き上げられた酪農の歴史そのものを一瞬にして失い、今後の生活・経営再建等の見通し、精神的不安などその胸中を察するに余りあるものです。また、歴史ある熊本県の酪農を守るために、日々復興に尽力されている関係者の方々に心より敬意を表す次第であります。」と述べた。



◎復興に向けた力強い言葉

これに対し、松野克紀同志会長は、「酪農を取り巻く情勢は、生産資材価格は一時期に比べ落ち着きはあるものの、F1・スモールをはじめとする肉用子牛並びに初任牛価格の記録的高騰やTPP大筋合意により将来に対する不安要因など、今後の酪農生産基盤に与える影響が懸念されております。このような状況下でこの度の発生した大地震を受け、本県酪農は極めて危機的な状況であります。全国の牛飼いの仲間である同志の皆様からは、深いご理解により多大なるご支援と数えきれないほど多くの励ましの言葉をいただきました。ここに心より深くお礼を申し上げますとともに、酪農家の生活・農業経営の復旧に活用させていただき、一日も早く火の国熊本県の元気な酪農の姿をお見せできるよう努力して参りたい。」と力強い意見が述べられた。